

平成 27 年度レブンアツモリソウ保護増殖検討会 議 事 概 要

1. 概要

- (1) 日 時：平成 28 年 3 月 1 日（火）15 時 45 分～17 時 00 分
- (2) 場 所：札幌市環境プラザ(札幌エルプラザ公共 4 施設 2 階)
- (3) 出席者：
- 委員：高橋英樹座長/河原孝行委員/幸田泰則委員
 - 関係機関：北海道森林管理局計画保全部計画課（阿部、玉川）/礼文町産業課（川村）/礼文町高山植物培養センター（村山）
 - オブザーバー：北海道生物多様性保全課（小峰）/北海道大学大学院農学研究院助教志村華子/レブンクル自然館代表 宮本誠一郎
 - 事務局：北海道地方環境事務所（小口、平井、小野）/北海道地方環境事務所稚内自然保護官事務所（坂本）
- (4) 配布資料：
- 資料 1-1 平成 27 年度レブンアツモリソウ保護増殖事業の実施状況（環境省）
 - 資料 1-2 レブンアツモリソウの保護増殖事業（北海道森林管理局）
 - 資料 1-3 2015 年度レブンアツモリソウ保護増殖事業実施結果報告（礼文町）
 - 参考資料 1 平成 27 年度レブンアツモリソウ保護増殖事業 実施結果 統括表
 - 資料 2-1 平成 28 年度レブンアツモリソウ保護増殖事業の実施計画（環境省）
 - 資料 2-2 2016 年度レブンアツモリソウの保護・増殖に係る活動予定（礼文町）
 - 参考資料 2 平成 28 年度レブンアツモリソウ保護増殖事業実施計画 総括表
 - 参考資料 3 レブンアツモリソウ保護増殖事業計画
 - 参考資料 4 レブンアツモリソウ保護増殖検討会設置要領
 - 参考資料 5 平成 26 年度レブンアツモリソウ保護増殖検討会議事録

2. 議事概要

高橋委員が座長となり、議事運営を行った。平成 27 年度保護増殖事業実施状況（別紙 1）及び平成 28 年度保護増殖事業実施計画（別紙 2）について、北海道地方環境事務所、北海道森林管理局及び礼文町より説明した。主な意見、質疑等は次のとおり。

【環境省の事業について】

- (委 員) ササの刈払い地内でレブンアツモリソウがどんどん増えているが、自然に元々有った株が、出てきたと考えられるのか。急激に、素晴らしく開花株も増えているが、潜在的にこれだけ有るということか。
- (オブザーバー) 場所によって有ると思う。西側斜面の方は元からアツモリソウがあったが、今は無いという区域で、東側斜面の方の一番右手の区域でかなりアツモリソウが増えている。
- (委 員) ササで被圧されていたものが、ササを除去することによって開花してきたということ。かなり大掛かりにやって、生育が良くなったということ。

となので、相当の成果である。

- (環 境 省) ここは元々調査されていた箇所、以前は沢山有ったと思われるが、その後、全然判らなくなってきたというところ。近くの掻き起ししたところは出ていないので、長い間経ってしまうとだめだが、それほど長い時間が経っていなければ刈払う事によって出てくるのではないかと考える。
- (委 員) これに似たような、ある程度群生していた箇所の周辺で最近ササが入ってきたような箇所では、ササを刈ることによって消滅しかかっている株を救うということはできるのか。
- (委 員) 斜面上部も昔は生育していたと思うが、今、ササとススキがどんどん斜面の下の方に降りてきており、ここ 15 年ほどの間でだんだん飲み込まれつつあるので、そういう所は効果的に出る可能性がある。
- (委 員) 刈払いも計画当初は非常に小さな所から始めたと思うが、このように非常に良い成果が出てきたので、これを是非、規模を広げてやって頂けると良いと思う。
- (委 員) 条件の良い場所であれば成果はかなり期待できるので、重点的にやると良い。

【北海道森林管理局の事業について】

- (委 員) 森林管理局の取組という形で公表する事について話があったが、こういう結果は非常に重要で、ぜひ公表して頂くと良い。場所を公開すると分かってしまうので、マップベースでどこまで載せるか検討が必要である。
- (林 野 庁) マップベースは考えていません。環境省で平成 4 年に調査された結果が島全体で大体 3,000 株ということだが、(24~27 年度に北海道森林管理局で行ったラジコンヘリを用いた調査で、礼文島最大の群生地で推定数が) 4,000 株に増えたと思われるのはどうかと思っている。このことを書いてしまっても良いか。
- (環 境 省) 数字が増えたのは、空中から調査することで今まで見えなかったものが見えるようになったためで、単純に増えた訳ではない事を説明して頂ければ良いと思う。
- (委 員) 少し調査地域を広げたら、今まで言われていたよりも多かったという意味であれば良いが、沢山あると思われるのは誤解なので、発表されることは大変良い事だが、表現に留意して頂きたい。

【礼文町の事業について】

- (委 員) 礼文町の公園の移植地は南の方の生育地の方が近いが、今後植え替えるのか。
- (礼 文 町) 南部由来の株にすべきだが、南部由来の手持ち株が無いいため試験的に北部由来株を植えている。今年度から本格的に南部由来の株も培養を開

始したので、いずれは南部由来の株に植え替えて、北部由来の株は植物園に移動させる。花が咲くまでにはまだ時間があるので、活着させて経過を見たいと考えている。

(委員) 一度、開花して結実したという話を聞いたが。

(礼文町) 北由来の無菌培養株で開花、結実したことがある。

(委員) その株から花粉は出ていないか。他から来た花粉がついて受粉したという事か。

(礼文町) そうです。

(委員) 北部と南部の集団は我々が思っていたよりも、かなり遺伝的に遠い関係のようなのである。遺伝的にはユニットとしては違うものとして扱った方が良いので、遺伝的に逃げ出さないようにだけ注意してほしい。

(礼文町) これをこのまま南に置いておくということは絶対にせず、細心の注意を払って行う。

以上